

第58回 下関市立大学 卒業証書・学位記授与式 祝辞 (2023.3.24)

下関市立大学第58回卒業証書・学位記授与式にあたり公立大学法人を代表してお祝い申し上げます。

はじめに、卒業生並びに修了生の皆さん、本日はご卒業誠におめでとうございます。

また、卒業生、修了生の皆さんの在学中、物心両面にわたり支えていただいたご家族をはじめ関係者の皆様に重ねてお祝いを申し上げます。

今、卒業生、修了生の皆さんの胸中には、無事に学業を終えたという達成感と、これからの自分の進路への期待感が交錯していることと思います。

入学以来、この学舎で、友と語り、師の教えを受け、学業に励み身に付けた多くのことは、一生の宝であり、これからこの宝は、長い人生を歩くとき、様々な場面において必ずや大きな支えとなると確信します。

特に、皆さんは、3年前の新型コロナウイルスの出現により、入学時に思い描いていたキャンパス生活は、突如余儀なく制約を受けることとなり、講義が遠隔リモート主体の学修となったことや、サークル活動をはじめ多くの人的交流制限を受けたことに、学生としての目標を見失いかねない状況もあったことと思います。

しかし、この境遇と共存し、知恵と工夫を凝らし困難を克服できたことは、誇りとなり自信にもつながったと思います。改めて本当によくぞ頑張ったと心から敬意を表します。

さて、近年の世界の情勢は、他国への軍事侵攻や、武力による紛争など、かつての冷戦時代に逆戻りするかのような気配を感じさせる出来事が続いています。

日頃あまり意識せず平和な社会を享受している私たちにとっては、にわかに実感しがたいことですが、広く大きな世界に飛び出した時に、目の当たりにする信じがたい現実も、受け入れなければ前に進めないことがあります。その際には自分らしい関り方で、人間としての更なる成長を遂げて欲しいと思います。

こうした出来事の一方では、コロナ禍にあって開催された一昨年の東京オリンピック・パラリンピックや、昨年のサッカーW杯、そして先のWBC大会などのスポーツの祭典は、平和を象徴するイベントとして私たちに感動や勇気を与えてくれ、社会を明るくしてくれました。

改めて、平和な世界であればこそ開催できる祭典であることを実感すると同時に、これからも平和な社会の維持、構築に向けて努力することが、我々一人一人に求められていると感じます。

時代は、大きく進化し、AIやDXを活用したイノベーションの世界にあり、そしてやがて到来するSociety5.0に向かっていますが、その中で私たちが未だ経験したことのない人生100年時代がやってきました。これらの新しい社会を切り開いていく先鋒は、皆さん一人一人であります。

長い人生には失敗と挫折はつきものですが、是非とも勇気を持って、新しい社会を切り開いてください。そして、思いっきり大きく羽ばたいてください。

改めて皆さんの今後益々のご活躍と、充実した人生を送られることを祈念し、お祝いの言葉とします。

令和5年3月24日

公立大学法人 下関市立大学 理事長 山村重彰